

導入期におけるピアノ指導法の研究（1）

— 大学におけるピアノ導入指導法を考える —

須崎 朝子

広島都市学園大学 子ども教育学部

要 旨

本研究は教員、保育者養成を目的として設置された大学において行われるピアノ学習の諸問題を考察するものであり、授業の課題設定、教材、授業形態、試験の実施方法等について個別に検討を加えている。これは、広くは青年期もしくは成人期におけるピアノ学習の導入指導法を研究するという意図を持つ。本研究では、①小学校の教員採用試験で求められる水準の課題を達成できる技能の習得、②読譜、運指において自主学習を継続していくことができる基礎的な能力の習得を促すピアノ教育法の一例を紹介した。

キーワード：ピアノ学習、ピアノ教育法、導入指導

はじめに

筆者は、これまでピアノ指導を通して、ピアノを初めて学習する、いわゆる導入期の指導法の研究に力を入れてきた。楽譜の読み方、運指法、楽譜の読みと身体動作の連動など、ピアノ学習者ができるだけ躓かずに学習を続けるための方法を模索してきた。ピアノ学習の導入期といっても、ようやく身体を動かすことができるようになった乳幼児に対しての導入指導や、言葉も達者になり、身体を滑らかに動かすことができるようになった未就学から小学校の年齢の子に対する導入指導、概念的な思考に長じた成人に対する導入指導など、年齢や身体の成長・発達、精神的な成熟度に応じて、適切な指導方法が考えられるべきであろう。本研究は、その中でも、教員養成系の大学において初めてピアノを学習する学生を通して、青年期や成人期のピアノ学習における導入指導法を検討することを目標とするものである。

1. なぜピアノが必要か

広島都市学園大学（以下、本学）のように、小学校の教員や、幼稚園教諭、保育士を養成するカリキュラムを持つ養成校において、ピアノ実技は必修科目、もしくは選択科目に組み込まれているのが通例である。本学においても、2015年現在、『ピアノ技法』という科目は1学年の前期・後期の通年授業で、週2コマ（90分×2コマ）の設定である。ただ、ピアノの場合、技術の習得目標をどこに設定するかで、大幅に学習の困難さが変わってくる。また、全くの初心者と経験者では課題も変わってくるだろう。経験者の中でも、ピアノ学習の継続時間の違いや、ブルクミュラー『25の練習曲』、ソナチネ、ソナタ、バッハ『イ

ンヴェンション』, もしくは『シンフォニア』など, 進度に差がある場合が多い。

『ピアノ技法』の授業を開始するにあたって, 履修登録者(30名)にアンケートを試みた。その結果, 全体の約7割の20名が全くの未経験者であることが明らかになった。大学生における導入期の指導法の研究としては, こうした未経験者がいかに効率的に小学校, 幼稚園, 保育所における採用試験レベルの課題を達成できる能力, 技術を身に付けることができるか, 考察していくことになるだろう。そこで, まず, 小学校, 幼稚園, 保育所における採用試験の実情を検討することから始めてみたい。

幼稚園や保育所に関していうと, 特に私立の場合は, 教員・保育者の採用試験は各園それぞれの裁量に任せられている部分が多い。ただ, 一般的な傾向として, 保育所, 幼稚園ともに実技試験の中でのピアノのウエイトが高いということ, また, 保育所より幼稚園でピアノや弾き歌いについての実技試験が課される場合が多いということは言えるだろう。例えば, 実際に次のような研究報告がなされている。

「2012年度, 本学(広島女学院大学)に出された広島県の幼稚園, 保育所141園の求人票から現在の就職試験における音楽試験の実態を調べてみると, 保育所93園うちピアノなどの試験がある園は56園, 幼稚園48園うちピアノなどの試験がある園は43園であった。音楽実技試験は減少傾向にあるものの, 幼稚園で90%, 保育所で60%の園で, 音楽実技試験を課していることがわかる。このことから養成校は就職試験, 採用試験に課せられているピアノや弾き歌いなどの音楽技術試験のための学習も担っているといえる」¹。

「試験内容については, 面接試験は幼稚園も保育所も95%以上の園で実施されており, 実技試験については幼稚園で84.2%, 保育所で58.6%, 筆記試験については幼稚園で40%, 保育所で17.6%とそれぞれ幼稚園の割合のほうが高かった。～(中略)～そして, 実技試験の内容は弾き語りや初見を含むピアノ実技が最も多く, ほかには実習や手遊び, 工作などであった」との研究報告もある。この研究では, さらに, 調査対象となった幼稚園120園のうち約77%で, 保育所87園のうち48%でピアノを含む実技試験が行われていたと報告されている²。

ピアノ実技を含む採用試験については, 自治体別, 幼稚園／保育所別, また公立／私立別によって課題がまちまちなのが現状であるが, 授業科目『ピアノ技法』では学生に到達すべき目標を設定しておきたいと考えた。本学の場合, 初学者の割合が多いので, 極端に高い目標設定は難しいと考えられる。そこで, ①小学校の教員採用試験で求められる水準の課題を達成できる技能の習得, ②読譜, 運指において自主学習を継続していくことのできる基礎的な能力の習得を最初の目標に掲げることにした。

①「小学校の教員採用試験で求められる水準の課題を達成できる技能の習得」については, 表1に西日本の主要な自治体における小学校教員採用試験のピアノ実技課題の有無と課題内容の一覧を掲げておく。概観して分かるように, 京都市, 神戸市, 大阪府のようにそもそもピアノが実技課題に組み入れられていない自治体もある。また, 佐賀県, 大分県, 宮崎県のように小学校共通教材の弾き歌いのみがピアノ(鍵盤楽器)実技課題となってい

表１ 小学校教員採用試験におけるピアノ実技課題（平成 27 年度実施分）

都道府県	課題（鍵盤楽器）
京都府	(1) バイエル52番, 73番, 80番, 88番, 100番（いずれも原書番号による）のピアノ練習曲の中から各自任意に選んだ1曲を演奏（暗譜すること）。 (2) 小学校学習指導要領歌唱共通教材全24曲中、各自選んだ学年を異にする3曲中から当日指定する1曲をピアノ伴奏しながら視唱。
京都市	音楽実技なし
大阪府	音楽実技なし
大阪市	(1) 無伴奏による歌唱（指定曲「とんび」、「まきばの朝」、「もみじ」、「こいのぼり」、「スキーの歌」、「冬げしき」、「おぼろ月夜」、「ふるさと」、「われは海の子（歌詞は第3節まで）」の中から1曲を選択） (2) 自由演奏（楽器及び曲目は自由、弾き歌いも可）
兵庫県	(1) 歌唱：「こいのぼり」（文部科学省唱歌）※無伴奏、任意の調 (2) 器楽：「とんび」（梁田貞作曲）※キーボード、鍵盤ハーモニカ、またはソプラノリコーダーのいずれかを選択して演奏
神戸市	音楽実技なし
奈良県	(1) 歌唱：次の①～③のうち、当日指示する曲を無伴奏で歌唱します。①「夕やけこやけ」、②「さくらさくら」③、「茶つみ」 (2) 器楽演奏：ピアノ、ソプラノリコーダー、鍵盤ハーモニカの中から各自選択し、任意の曲を演奏します。
鳥取県	弾き歌い（小学校の歌唱共通教材の中にある、「もみじ」、「ふるさと」の内、どちらか当日指定した曲を前奏をつけてピアノで弾き歌う）
島根県	音楽実技なし
岡山県・岡山市	新学習指導要領に示された歌唱共通教材「夕やけこやけ」、「ふじ山」、「さくらさくら」、「とんび」、「ふるさと」のうち、当日指定する曲をピアノで弾き歌いする。
広島県・広島市	(1) オルガン演奏（「バイエルピアノ教則本」の51番から103番までのうち1曲を選択して演奏。） (2) ソプラノリコーダー演奏（当日指示する曲から1曲選択し演奏。） (3) 歌唱（当日指示する曲から1曲選択し歌唱。）
山口県	(1) 次の小学校の共通教材3曲の中から、当日自ら1曲を選択し、簡単なピアノ伴奏をつけての歌唱。「春の小川」、「まきばの朝」、「ふるさと」 (2) 次のいずれかによる任意の楽曲の演奏（独奏曲に限る）＜電子ピアノ・声楽・その他の楽器（電子楽器を除く。）＞
徳島県	次の曲をピアノ伴奏しながら歌う。（第2学年共通教材）「虫のこえ」
香川県	「かたつむり（文部省唱歌）」又は「ふるさと（文部省唱歌）」のどちらか1曲を志願者が選び、主旋律を歌い、ピアノによる伴奏をする。
愛媛県	音楽実技なし
高知県	小学校共通教材「春が来た」（第2学年）、「こいのぼり」（第5学年）のうち、当日指定された楽曲にピアノ伴奏をつけて歌う。
福岡県	小学校受験者の音楽実技については、小学校第4学年から第6学年までの歌唱共通教材の中の事前に指定する3曲のうち1曲を本人が選択し、演奏しながら歌唱する。
福岡市	「ふるさと」をピアノを伴奏しながら歌唱。
北九州市	小学校第5学年及び第6学年の歌唱共通教材の中から試験当日指定する曲をピアノ伴奏しながら歌唱する。
佐賀県	「ふるさと」「冬げしき」「おぼろ月夜」の3曲の中から、当日指定された1曲をピアノで弾き歌いする。
長崎県	(1) 歌…課題曲を歌詞唱する。課題曲は4・5・6年生の共通教材から当日1曲指定する。 (2) オルガン…次の曲の伴奏をする。（当日1曲指定）指定曲「春の小川」、「ふじ山」、「ふるさと」
熊本県	学習指導要領に示されている共通教材（「春の小川」「こいのぼり」「われは海の子」）の中から、1曲の伴奏をピアノで演奏。
大分県	音楽（ピアノ伴奏による歌唱共通教材の弾き歌い（1番のみ。前奏及び後奏を入れる。楽譜は見てもよい。）。）
宮崎県	共通教材（「とんび（第4学年）」「冬げしき（第5学年）」「われは海の子（第6学年）」のうち当日指定する1曲を、電子ピアノで弾きながら歌う。
鹿児島県	音楽実技なし
沖縄県	(1) オルガン（電動式）「春の小川」又は「われは海の子」のうち1曲を選択し、オルガン伴奏で弾き歌いをする。 (2) ソプラノリコーダー 「冬げしき」（文科省唱歌、ヘ長調）の旋律を演奏する。

る自治体もある。一般的に言って、小学校教員に求められている技能は基礎的な鍵盤演奏能力であり、必ずしも高度な技能ではないと思われる。本学の位置する広島市、広島県の、「オルガン演奏（「バイエルピアノ教則本」の51番から103番までのうち1曲を選択して演奏。）」という課題は、そう考えると、小学校教員養成課程の学生が採用試験に向けて習得すべき目標とするには十分であろう。また、広島市が募集する保育士の採用試験では第三次試験でピアノ実技試験が課せられており、そこには「【器楽】ピアノを使つての「弾き歌い」やリズム変化など。」とある。これも、先の目標（「バイエルピアノ教則本」の51番から103番までを演奏する技能）で十分対応可能であると思われる。したがって、授業「ピアノ実技」では授業の到達目標として、「バイエルピアノ教則本」の51番から103番までのうち1曲以上演奏する技能の習得と、小学校共通教材が弾き歌いできる能力の習得の二つを挙げることにした。

ただ、実のところをいうと、「バイエル51番からバイエル103番」という課題の範囲の中には、かなりの難度の差がある。バイエルにはいわゆる「70番前後の壁」と言われる難易度の上昇がある。「73番は、臨時記号をふんだんに使用しているので音符（運指を含む）が読み取りにくく初級者には困難な楽曲のひとつである。一回のレッスンで合格しないケースが多く、初級から中級へ向かうひとつのヤマ場と考えている。」と、大学での指導経験豊かな研究者も述べている³。

実際にバイエル73番の楽譜（図1）を見てみることにしよう⁴。楽譜を見ると、7小節目の臨時記号の連続や、後半部分の右手和音、左手旋律のフレーズが右手旋律、左手和音へと交代するなど、瞬時に頭を切り替えることが必要になってくることが分かる。「バイエル51番からバイエル103番」という課題設定であるが、73番レベルの難度に対応できるような力を身に付けさせたいと考えている。

また、②「読譜、運指において自主学習を継続していくことのできる基礎的な能力の習得」について言えば、ピアノレッスンを受けている間は曲が弾けたが、やめてからは弾けなくなったと話す経験者が多いことから、自分で楽譜を見ながら、音の長さ、音の高さを把握し、その音符の通りに、指を動かすことができるという鍵盤奏法の基礎能力を身に付けることが大事だと考えられる。読譜と身体動作の連動の問題についてはなお研



図1 バイエル73番の楽譜

究すべき課題が多いが、筆者のこれまでの経験から、導入教材には呉曉による『うたとピアノの絵本①みぎて』、『うたとピアノの絵本②ひだりて』、『うたとピアノの絵本③りょうて』、『アキピアノ教本①』を用いることにした⁵。授業では、この4冊の教本をバイエルに入る前の段階に位置づけた。『うたとピアノの絵本』はもともとの対象年齢が「3歳から7歳」とあるように、ピアノ学習のごく初歩の段階の教材として作成されたものであり、右手の指番号「1・2・3」と「ド・レ・ミ」の対応から始まる。音の高さと指番号の関連に目を向けた教材は多いが、呉曉の教本の特色は、音の長さ（音価）を把握させるのに、第一に両手読みの徹底、第二に三拍子系の曲の使用が挙げられる。実は読譜が苦手という人の中には、音の高さは分かるのに、音の長さが分からないというケースや、片手ずつ楽譜を読まないと言えないというケースが多いものである。例えば、『アキピアノ教本①』には、全部で61曲収録されているが、その3分の1にあたる21曲が3拍子の曲である。3拍子の曲は音価を意識しないと正しく弾けないものが多いのである。

実例（図2、曲名は「ワルツをおどろう」）を見てみよう⁶。



図2 「ワルツをおどろう」の楽譜

1小節目から左手に付点2分音符が出てくるが、右手の4分休符から始まるメロディーによって自然にその音符の長さが理解できるようになっている。3小節目の左手の付点2分音符の前に休符を入れたくなる傾向があるが、この曲が3拍子であることによって、それが避けられるようになっている。4拍子系、2拍子系を身体的に志向する傾向の強い日本の音楽環境にあって、3拍子系の曲は音価を意識させる効果を持っていると言える。

呉曉はアキピアノ教本を編集した方針を以下のようにまとめている。

「第1巻

1. 右手が音符を2つ弾く間に、左手が1つ…というような、優しい段階から始めて、両手でいろいろな組み合わせを弾けるように進めていきます。

（中略）

3. はじめは右手の1～5の指で「ド・レ・ミ・ファ・ソ」を弾いていますが、27番で、はじめて「レ・ミ・ファ・ソ・ラ」を弾く練習を始めます。

第2巻

1. 少しずつ音域を広げていき、調も増えていきます。

2. 付点リズムやカノンなど、少し難しい両手の動きを練習します。
3. 左手は、重音や分散和音など、伴奏らしい形を弾くようになります。

第3巻

1. いろいろな調で、重音や分散和音の伴奏を練習します。
2. 反進行や模倣など、音の動きが少し複雑になっていきます。
3. フレーズが分かるように、スラーをつけた曲を増やしました。(以下略)」⁷

呉暁の教材では、以上で説明されているように、簡単なものからより複雑なものへと、無理なく進められるようになっていく。はじめて出てくる調性が音符の臨時記号として出てくるので、楽譜の読みという点でも自学が進めやすい形になっている。このような導入教材を学習する際、筆者が習得してもらいたい能力として念頭に置いていたのは、主に以下の4点である。

- ① 音の高さを把握する
- ② 音の長さを理解する（両手読みを心がける）
- ③ 楽譜の音符を目で追いながら指を動かす
- ④ 指番号と鍵盤を対応させる

これはそのまま「指導の留意ポイント」である。授業では学生に課題に取り組ませながら、教員は学生が音を正しく読んでいるか、音の長さを正しく理解できているか、鍵盤を見ずに指を動かしているか、指番号と鍵盤を対応できているか、チェックしていくということになる。導入期のよき習慣こそが、②「読譜、運指において自主学習を継続していくことのできる基礎的な能力の習得」の達成を可能にすると思われる。

以上のように、ここでは授業科目『ピアノ技法』の授業目標設定と実際に使用する教材やその意図について検討してきた。ここで検討したような授業目標を学生が達成できるかは、学生自身の資質やこれまでの経験を踏まえながら、実際に授業を行いつつ考察していく必要があるだろう。次に学生に行った授業内でのアンケートを検討して、実際の教育方法について検討してみることしたい。

2. ピアノ実技に関する事前アンケート

筆者は授業『ピアノ技法』を始めるに際して、履修登録者全員（30名）に対して、アンケートを試みた。アンケートの内容は以下である。

このアンケートは、これまでのピアノ学習の経験や、現在のピアノ学習環境とピアノ学習経験の有無を聞くものである。その結果を集計すると、ピアノ学習の経験者が全体30人中10人で、約3割を占めていた。その9人中6人が3年以上ピアノを継続して学習した経

- ① 今までに、小学校や中学校の授業以外で、ピアノやエレクトーンなどの鍵盤楽器を継続して、習った経験はありますか。
- ② ①であると答えた方にお聞きます。それは何歳（学年）から何歳まで（学年）、どれくらいの期間ですか。
- ③ 今、大学に通うために住んでいる場所に、ピアノや電子ピアノ、キーボードなどの鍵盤楽器がありますか。
- ④ ③であると答えた方にお聞きます。それはどんな楽器ですか。あてはまるものを選んでください。
グランドピアノ ・ アップライトピアノ ・ 電子ピアノ ・ キーボード ・ その他（ ）
- ⑤ ③であると答えた方にお聞きます。それを一週間の間にどれくらい演奏していますか。
- ⑥ 今、現在、継続的にピアノレッスンに通っていますか。通っている方は一か月の時間数を記入してください。
- ⑦ ピアノ技法の授業を受けるにあたって、目標、要望、質問など、自由に書いてください。

験があり、小学生の時期を中心にピアノレッスンに通っていた。その他、１年に満たないピアノ学習経験者が３人いたが、これは保育系の大学受験に備えて、短期でピアノレッスンに通った者だった。

また、現在のピアノ練習環境について知る目的で、ピアノを中心とする鍵盤楽器の所有の有無、またその種類についても、アンケートを行った。アンケートをとった４月の時点では、学生の所有楽器はグランドピアノ１名、アップライトピアノ１名、電子ピアノ８名、キーボード４名、電子オルガン１名となり、半数の１５名が鍵盤楽器を所有、それ以外の１５名は練習用の鍵盤楽器を所有していないという結果になった。このことにより、本学の練習室の活用についての課題があることが明らかになった。

授業を始めるにあたってこのようなアンケートを行った上で、クラス分け、個別指導ないし一斉指導の振り分けを行った。『ピアノ技法』を担当する教員は筆者を含め、４人で、そのうち２名が一斉指導を担当、他の２名が個別指導をピアノ経験者に向けて行うことにした。一斉指導は、電子ピアノを各人一台ずつ使用し、ヘッドホンではなく、スピーカーで音を出すという形態で行った。教員の模範演奏に合わせて、学生も一斉に弾くことによって、音の高さと音価を耳で体得できるという利点があった。ただ、学生間に進度の差が出てくると、取り組む課題に差が出て来て、他の出している音が耳障りで練習に集中できな

いとの声も出てきた。そこで前期中間試験以降は、次第にヘッドホンで各自が自分の課題に取り組み、教員が巡回して指導していくという形態に移行することにした。

また、試験形態であるが、本授業は1年次前期・後期の通年授業であるので、前期中間、前期期末、後期中間、後期期末の実技試験を本学教員が聴講する公開試験という形で実施することにした⁸。公開試験によって試験を行うことには長所、短所の両方があると思われるが、授業の活性化と学生の学習意欲向上をねらったものである。

まとめ

筆者は、以上のように、大学において初めてピアノを学習する学生を通して、青年期や成人期のピアノ学習における導入指導法を検討してきた。青年期や成人期において、ピアノを始めるという場合、自分の好きな曲を弾きたい、楽しみながらピアノが上手になりたいなど、いろいろなニーズがあるだろう。生涯学習がさげばれている現在、音楽教室に通う形でピアノやその他の楽器を学習する成人も多いとの報告もある⁹。その意味では本論で触れた様々な観点（読譜指導、教材選択等）はそうした一般の青年、成人の導入指導にも応用可能であろう。ただ、本学の『ピアノ技法』という授業では、①「小学校の教員採用試験で求められる水準の課題を達成できる技能の習得」②「読譜、運指において自主学習を継続していくことのできる基礎的な能力の習得」との目標を挙げているように、保育現場や教育現場での実践力を育てる方向で授業内容を構成している。その意味でただ楽しむというピアノ学習とは異なるということは言えるかもしれない。また、『ピアノ技法』という授業は開講されて、まだ2年目であるということもあって、授業としての目標設定、学生の達成課題、使うべき教材、授業の進め方について、今なお試行錯誤の途上である。ただ、本論では、概略としてではあるが、授業の大枠の方針を示すことができたのではないかと思う。今後は、教材検討、授業形態、試験の形式等の詳細な考察と、授業の実施に伴って生じてくる様々な問題について個別に研究を行っていくことにしたい。

註

- 1 佐藤邦子「保育者養成校における弾き歌い指導について」『広島女学院大学人間生活学部紀要』創刊号、2014年、60ページ。
- 2 東ゆかり・白川桂子「保育者養成校における授業カリキュラムと就職試験の内容との関連性についての一考察」『鎌倉女子大学紀要』第14号、2007年、68-69ページ。
- 3 石田清子「バイエル教則本」の課題曲選定の考え方と習得到達度について」『愛知江南短期大学紀要』第37号、2008年、178ページ。
- 4 バイエル（全音楽譜出版社出版部編）『標準バイエルピアノ教則本・併用曲付』全音楽譜出版社、1983年、49ページ。
- 5 呉暁『うたとピアノの絵本①みぎて』『うたとピアノの絵本②ひだりて』『うたとピアノの絵本③りょうて』音楽之友社、1998年。呉暁『ふよみとテクニックを楽しく アキピアノ教本①〔5～8歳〕』音楽之友社、2001年。『うたとピアノの絵本』の3冊は、これまた3冊から成る『アキピアノ教本』の導入に位置付けられている。その他、呉暁（山本美芽 文）『練習しないで上達する 導入期のピアノ指

導』音楽之友社，2005年，参照。

- 6 呉曉『ふよみとテクニックを楽しく アキピアノ教本①〔5～8歳〕』音楽之友社，2001年，55ページ。
- 7 呉曉，同書，4ページ。ピアノ指導者を悩ませる問題にピアノ導入指導におけるテキスト選択の問題がある。初学者の興味をひく楽しい曲が多く含まれている教材，譜読み指導に向いている教材，最初から移調を意識した教材など，様々なものがある。導入期の教材の比較検討についてはまた改めて，検討することにした。
- 8 実技試験を公開試験という形式で行うことについては検討すべき課題があるが，ピアノ演奏が他者に向けられる活動である以上，聴いてもらおうという意識をもって演奏することは重要であると思われる。実際，学生の中には，同じ授業を受講している学生全員，授業担当教員4名，それ以外の本学教員数名を前にして，過度に緊張していると思われる者もいた。指の震え，普段ではないような間違いなど，学生にとっても克服すべき課題が公開試験の中で明らかになった。ピアノレッスンの学習の定着を図る上で，他者に聴いてもらう機会（公開試験やピアノコンクールなど）の重要性については様々な立場から経験則として述べられることも多い。
例えば，ピアニストの金子一郎は「確実に言えることだが，私の友人で演奏機会を多く作る人ほど，上達するスピードが速い傾向にある。」，「一番大きな財産は，その場で聴いてもらい，さまざまな方々から演奏について意見をもらうことである。自分の印象と聞き手の印象は一致しない場合がとても多いからである。」と語っている。金子一郎『挑戦するピアニスト 独学の流儀』春秋社，2009年，57ページ。
- 9 日本国内で最大の音楽教室であるヤマハ音楽教室では，子どもの生徒数が32万人に対し，成人の生徒数が11万人を数えるとのことである。少子化の影響もあって，教室全体における成人の生徒数の割合が年々上昇している。
詳しくは，<http://www.yamaha-mf.or.jp/activity/pdf/report.pdf> 参照（2015年12月現在）。

Study on the Piano Learning for the Teacher and the Childminder Training in a University

SUZAKI Asako

Hiroshima Cosmopolitan University Faculty of Childhood Education

Abstract

This study considered problems of the piano learning to occur in a university established for the purpose of the teacher and the childminder training, and examined about the goal of the piano learning class for the teacher and childminder education, the teaching materials, the class form, the enforcement method of the examination individually. This had an intention to study introduction methods of the piano learning in youth or the adulthood widely. We introduced an example of the method of piano education which promotes the acquisition of the basic abilities that achieve the task demanded in a teacher employment examination of Elementary School and continue to study reading music and fingering in the piano playing by students themselves.

Key words: the method of piano education, the piano learning class for the teacher and the childminder training, piano learning in youth or the adulthood